

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立思斉中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日(木)

■ 調査の対象学年

中学部9年生生徒

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語・数学・理科)

- | |
|--|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。 |
|--|

■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した生徒の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校%	全国平均%
朝食を毎日食べていますか。	88.6%	91.2%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	75.7%	81.0%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	88.5%	92.6%
自分にはよいところがあると思いますか。	84.3%	86.2%
将来の夢や目標を持っていますか。	71.4%	67.5%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	95.7%	95.9%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	98.5%	96.6%

- 「朝食をとること」「就寝時間、起床時間」など、規則正しい生活習慣に関しては、全国平均を下回る結果となりました。一方で、「自分の進路を考えること」「いじめは許されないという認識」「人の役に立ちたいという意識」については、全国平均と同程度又は若干上回る傾向がみられました。規則正しい生活習慣と望ましい規範意識を身に付けることは、子どもたちの心身の健やかな成長にとってとても重要です。そのためには、学校での継続的な指導に加えて、家庭においても日々の生活リズムや価値観について話し合う機会を設けるなど、学校と家庭が連携して子どもたちを支えていくことが大切です。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。「3時間以上」	7.1%	9.9%
「2時間以上、3時間より少ない」	22.9%	20.9%
「1時間以上、2時間より少ない」	45.7%	30.8%
「30分以上、1時間より少ない」	18.6%	19.1%
「30分より少ない」	2.9%	11.3%
「全くしない」	2.9%	7.7%

- 家庭学習については、学習時間が30分未満の生徒の割合は全国平均よりも低いものの、全体的な学習時間の量は少ない傾向がみられました。この背景には、学校からの宿題のみの学習にとどまったり、長時間のテレビ、ネットなどの視聴やゲームを行ったりしていることが影響していると考えられます。また、規則正しい生活習慣が身に付いていないことが、家庭学習の定着を妨げる要因となっていることも考えられることから、学校、家庭が連携し、生活習慣や学習環境の見直しを含めた継続した支援、働きかけが必要です。

(2)改善に向けての取り組み

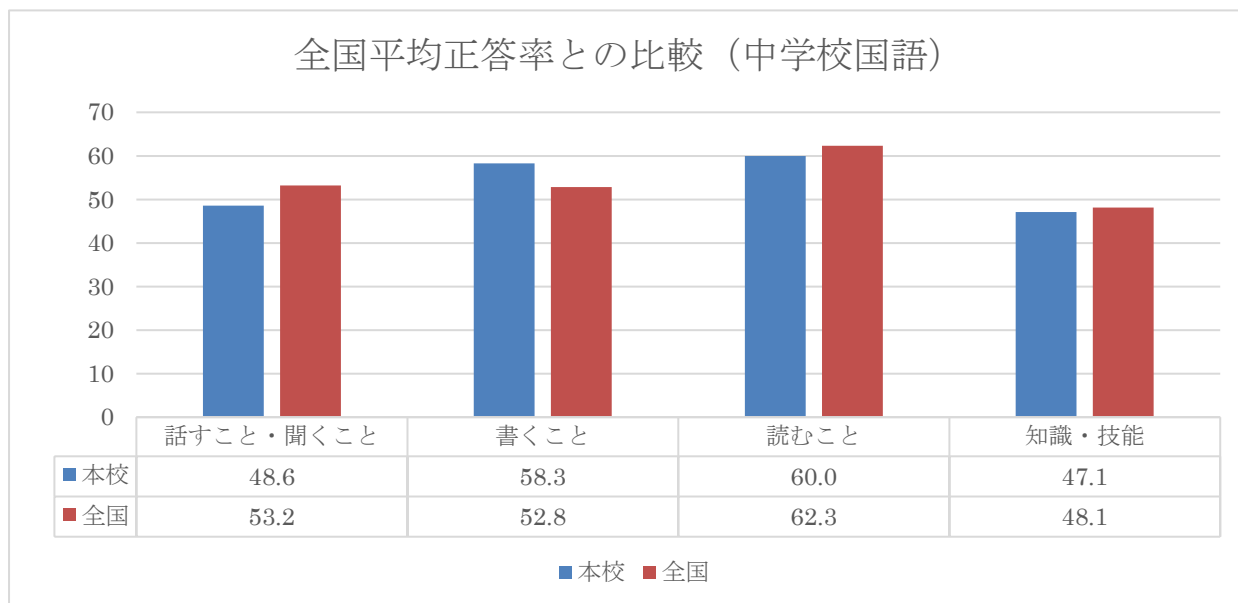
【学校では】

- 家庭学習の定着、充実に向けて、生活習慣や学習環境の見直しなど、望ましい生活習慣づくりをはじめ、家庭学習の意義、内容、方法についても、学習用端末の活用を含め、生徒一人一人の実態に応じた指導を行っていきます。
- 中学校3年間を通して、キャリア教育の充実を図ります。キャリア教育では、教科や学級活動、道徳教育の学習や、職場体験などの体験活動を通して、望ましい職業観、勤労観の育成、職業に関する知識などの習得を図るとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する力や態度を育てていきます。

【ご家庭では】

- 「毎日の学習時間を決め、一定のリズムで家庭学習を行うこと」「集中できる環境で学習すること（ゲームなどの時間を家庭でルール化し、内容を把握するなど）」について家庭で話し合ってください。このような取り組みを通して、望ましい生活習慣や家庭学習の習慣、主体的に学習に向かう態度を育みましょう。また、学習意欲を高めるために、学習の成果や努力を認め、積極的な声かけや励ましをお願いします。
- 職業や働き方について話し合う機会を設けてください。また、子どもの興味や得意なことを認め、進路や将来について話し合える雰囲気づくりをお願いします。

2 国 語



(1) 結 果

「書くこと」の領域は全国平均正答率を上回っています。また、無回答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「書くこと」の正答率が、全国平均を5.5ポイント上回りました。特に、読み手の立場に立って、表記や語句の用法などを確かめて、文章を整えることができるかの事項では、10ポイント以上全国より上回っていました。普段から、自分の文章を粘り強く何度も推敲しながら書くことに取り組んでいる成果が表れていると考えられます。さらに、問題形式では「短答式」・「記述式」の正答率も全国平均より上回っています。

課題は「知識・技能」を確実に身に付けることです。漢字を適切に用い、多くの語彙を身に付けることが、「話すこと・聞くこと」・「読むこと」の力を伸ばすことにつながります。また、表現できるものを増やすことで「書くこと」の力もさらに伸びていくことができると捉えています。今後も、次のような活動を通して日々の授業で力を身に付けていくことが重要であると考えます。

(3) 学力向上のための取り組み

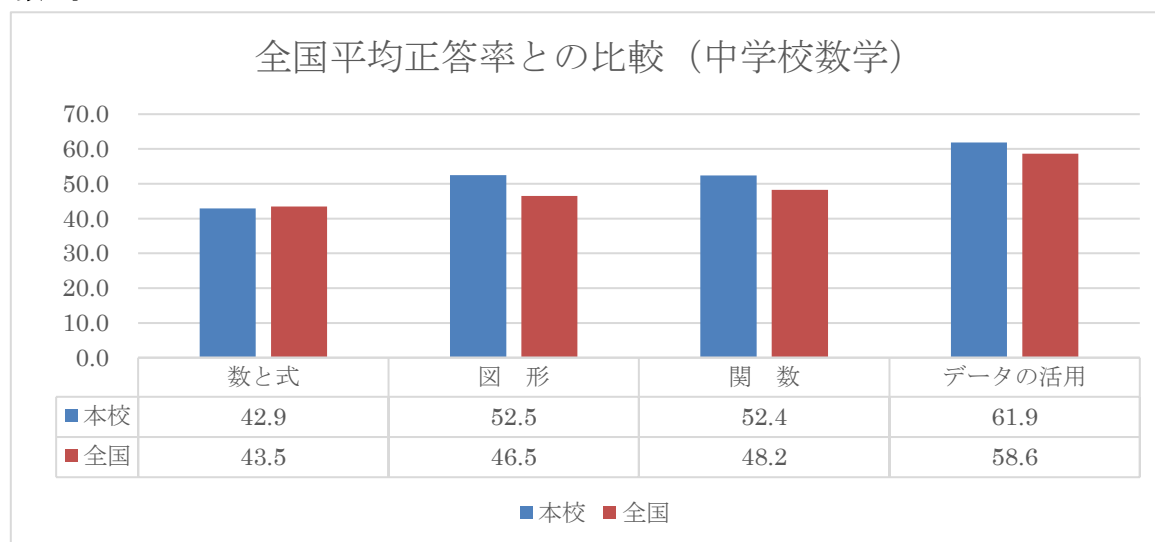
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業での「学び合い」のなかで学ぶ楽しさを感じながら、多様な考え方に触れ思考を深める活動を行います。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその根拠を明確にしながら書く機会を増やします。
- 一人一台端末を利用し、eライブラリを授業や課題などで活用することで、個別最適な学びを目指します。
- プレゼンテーションやインタビューなど、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 家庭学習を大切にしましょう。学習用端末にある「eライブラリ」では、自身の状況（習熟の程度、興味、関心等）に応じた学習が可能です。また、主体的に学習に取り組むことは、国語科ではなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書週間をつける上でおすすめです。

3 数 学



(1) 結 果

「数と式」の領域は全国平均をやや下回っていますが、「数と式」以外の領域で全国平均正答率を上回っています。特に、一次関数の増加量を求める問題や、相対度数を求める問題は、全国平均より 15 ポイント以上上回っていました。無解答率については、ほとんどの問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかを見る」問題で、全国平均より 15.3 ポイント上回っており、「データの活用で度数分布表から相対度数を求める」問題で、全国平均より 17.5 ポイント上回っていました。技能習得において、どうすればできるかを考えさせたり、学び合いの時間や小テストを適宜設定したりしたことが、今回の結果に繋がったと考えられます。

全国平均を 5 ポイント以上下回っている問題は、「連続する 2 つの 3 の倍数の和を文字で表す」問題、「関数のグラフから、必要な情報を読み取る」問題でした。

(3) 学力向上のための取り組み

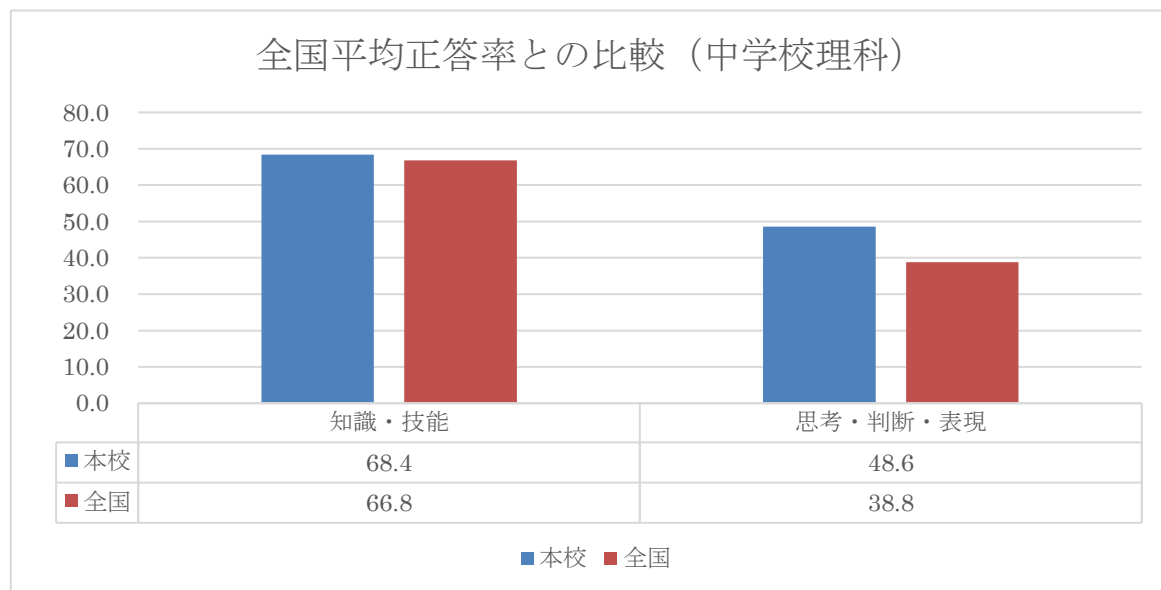
【学校では】

- 単に知識・技能を教え込むのではなく、生徒一人一人が考え、話し合っって考えを交流し、自ら発見し習得するような活動を適切に設定し、「考えることの楽しさ」や「分かる喜び」を感得できるような授業を展開します。
- 学習した知識・技能を活用する問題を適切に設定し、数学的な思考力や表現力を育てます。
- 授業の中で「学び合い」の時間を適切に設定し、自分の考えをもち、多様な考え方に触れ、数学的な考え方や表現する力を育てます。

【ご家庭では】

- お子さんのワークやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさんの励ましや称赞の言葉をかけてください。
- 問題内容の把握する力を身につけるために、活字を読む習慣が必要だと考えます。
- 数学を好きになるためには、問題解決に向けて粘り強く考え、自分で正解を導き出し、達成感を感じることが重要です。つまり、数学の学習だけでなく、他の教科の学習でも、すぐに答えを見たり教えてもらったりするのではなく、まず、自分の考えをもつことが大切です。様々な生活の場面でも同じことがいえます。「まずは自分で考える」ことを大切に生活するようご家庭でも声かけをお願いします。

4 理 科



(1) 結 果

「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに、全国平均よりも正答率が上回っていました。また、無回答率については全ての問題で全国平均より下回る結果となっています。

(2) 成果と課題

特に、生物分野と地学分野では全国平均を上回っています。また、化学分野でも、塩素の元素記号を書く問題では、全国平均を 12.2 ポイント上回っています。今回、タブレットPCを使用し解答していく形式でした。観察、実験方法は、事象・現象の動画を比較しながら正しく選択することができ、授業で見通しをもって課題に取り組み、観察・実験を繰り返し行うことが、成果に繋がっています。

課題は、「一酸化炭素は空気よりも軽いという性質を基に適切な行動をとる」問題で全国平均より、0.7 ポイント下回っていたことです。学習内容を実生活と関連付けてその科学的な知識を定着させ、思考力を育むよう、次の取り組みを行います。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 学習した知識・技能を基に、思考・判断・表現していく授業を工夫して行っていきます。
- 日常生活との関連のある課題に対して、学び合いやPC、書籍を用いた学習により、思考・判断・表現する場面を適切に設定していきます。
- 様々な見方や考え方ができるように、お互いの意見を交流する活動適切に設定します。また、結果に対する考察を書く活動を多く設定し、表現力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのワークやレポートの宿題への取り組みやテストをご覧になって、たくさんの励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 理科は、日常生活の中にたくさんの学びがあります。佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などの施設に、お時間があるときに一緒に行ってみてください。自然や科学技術を見る、聞く、触れる機会を大切にし、子どもたちの科学に対する興味、関心を、ご家族と一緒に深めていただきたいと思います。

